

A photograph of cherry blossom trees with red text overlaid. The trees are in full bloom, with pink blossoms visible against a bright sky. The branches are dark and silhouetted against the light. In the foreground, there are red banners or flags hanging from a wooden fence, partially obscuring the view of the trees. The text is written in a stylized, red font.

野尋禾の
ついのべ
その七
(2010/03)

まえがき

”野尋禾のついのべ その七 (2010/03)”です。
2010年3月に発表したついのべをまとめました。

いつからか、春は迷惑な季節になりました。
花粉や黄砂のせいです。
そして、卒業式や受験のせいです。
そうでなくとも、落ち着かない季節です。
そういった変化をそのままに受け止めていた時代はよかった。
すべてが初めての体験だった、遠い幼い日。
それからは春は憂鬱なだけでした。
そう、ついのべに出会うまでは。
ついのべに出会って、世界は一変しました。
もう、春は憂鬱ではありません。
輝いています。

……嘘です。
春は春です。
ちゅうぐらいに嬉しい春です。

あなたの暇を潰す柔らかいハンマー、または曲がるペンチ、それとも……

本コンテンツに収録された作品はフィクションです。
実在する人物、団体名などは便宜上、用いたものです。
実在する人物、団体になんら影響の及ぶものではありません。
ご了承ください。

収録作品はすべて、twitter で発表されたものですが、修正を加えたものもあります。

本ファイルに収録された作品の著作権は、野尋禾／nohironogi／佐々木秀博に帰属します。

2010/08/01

HP : http://www.geocities.jp/nohiro_nogi/

mail : nohironogi@gmail.com

Twitter : @nohironogi

弥生の空、そして、送る言葉。(2010/03/01 - 2010/03/10)

#twnovel

調査船は日本海溝に沿って北上している。
南米の巨大地震から数日後。
津波による海底への影響調査の航海。
主任は充血した目でモニターを睨む。
予測された大津波が並の津波ですんだ原因を探している。
すでに無人探査艇を失っていた。
何かがいる。
海底のどこかに。
津波を食った奴が。

2010/03/01 (Mon)

#kaibun
#twnovel

「なかなかさ！」
乙女、咲くときは今——弥生。
永い孤立。
真名、秘密——罪。
「雛祭り？ 恋が無いよ！」
「病は危篤？」
「鮫と……お魚かな」

2010/03/03 (Wed)

#twnovel

今年も、この季節。
今年は特に胸に迫るものがある。
女の子を授かって、初めての節句。
夫婦で、町のひとの列に加わる。
和紙のひとがたを手に、山へ。
山頂でお祓いを受けると、ひとがたが震える。
大丈夫だよ、と妻と語りかけながら、高く掲げる。
放つ。
弥生の空に、雛が巣立ってゆく。

2010/03/04 (Thu)

#twnovel

”鬼脚”と呼ばれた男がいる——今、愛らしい少女の前に。
その片足が、見えない。
それほど速く繰り出される蹴り技を、少女は懸命にかわす。
だが、追いつけない。
すでに、致命傷に近い打撃を受けている。
それでも、少女は倒れない。
「パ、パンチじゃないから、恥ずかしくないもん！」

2010/03/04 (Thu)

#twnovel

子供達が、鳥居の上に石を投げている。
見上げると、白いもの——和紙のひとがた。
私は慌てて、子供達をとめた。
子供達は、何も言わずに走り去った。
鳥居の上では、ひとがたが頭を下げている。
桃の節句に放たれて、まだ巣立てずにいる。
自分の姿を見る思いがした。
「空へお帰り……」

2010/03/04 (Thu)

#twnovel

次の誕生日で、お役御免——定年だ。
結婚式場に奉職して四十年。
若い頃には似合わなかった礼服も、今では皮膚のようになじんだ。
新婦の父親と間違われるほどだ。
歳の差婚が一般的になったとはいえ、こうなると、もう私の時代ではない。
頼もしい後進も育ててきた。
新郎代理は卒業だ。

2010/03/04 (Thu)

#twnovel

真夜中に校舎の硝子を壊したこともある。
盗んだバイクで走ったこともある。
伝説の男の生き様をなぞって生きた。

彼の駆け抜けた時代は、すでに遠い。
結局、私は彼になれなかった。
老醜を晒していることもそうだが、最も憧れたことが叶わなかった。
あの女優と口移しで食事することが。

2010/03/04 (Thu)

#twnovel

街で同じ顔とすれ違った——自分の顔と。
珍しくもない。
幼い頃の事故で失った身体の大部分を補う全身義体。
普及型の民生品だし、最新型でもない。
そう、珍しくない。
なのに、合金の頭蓋骨の中で、ゴーストが囁く。
データベースにアクセス。
伝説を検索している。
ドッペルゲンガー……

2010/03/06 (Sat)

#twnovel

二十二世紀初頭——
AI自身が自己進化機能を開発し、爆発的進化を遂げた。
シンギュラリティである。
世界は一変した。
革新的な技術の登場で、山積していた社会問題は解決した。
例外はあったものの、それはまた別の話。
重要なのは、ベイシック・インカムが実現しなかったことである。

2010/03/06 (Sat)

#twnovel

卒業式の季節です。
でも、進路を決めかねているひともいるかもしれません。
何をしたいのかわからない？
そんなときは、尻尾にまかせましょう。
あなたの本当の望みを教えてください。
さあ、尻尾を立てて、大きく振って……
どうしました？
え、尻尾がない？
ふざけてないで、さあ！

2010/03/06 (Sat)

#kaibun
#twnovel

「ボロボロだぜ、何もかにも……」
——どこのだ？
「叩け！ マボロシロボ！」
「負けた？ ただの子供に、か？ ……もに」
——何故だ？
——ロボ！
——ロボ！

2010/03/07 (Sun)

#twnovel

旅人ひとり、辺境の村に着いた。
村人は歓待し、ご馳走をふるまった。
「ゆでたまごはお好きかな」
「はい、いただきます。おや、ずいぶん細切れだ。それに、見たところ、鶏卵ではないようだ」
「ああ、鶏卵ではないよ」
「茹で卵ですよ」
「ゆでたまごさ」
別の時代、別の土地でのお話。

2010/03/07 (Sun)

#twnovel

「別れよう」
「嫌いになった？」
「違う。でも、君は僕が嫌いになっただろう？」
「どうしてそう思うの？」
「え？」
「いつもそう。最初に声をかけたときのこと、覚えてる？」
「いや」
「君は僕が好きなんだ——そう言ったの」
「そうだっけ」
「強引さに惹かれたけど……」
「……けど？」

2010/03/07 (Sun)

#twnovel

「鳥羽は、今年も駄目だったんですか？」
「単位がねえ……」
「仕方ありませんよ。一年の半分以上は海の上ですから」
「お袋さんをハワイに連れて行きたいのはわかるんだが」
「そうですねえ」
「今年も卒業式で号泣するんでしょうね」
「熱い男です、あいつは……」
「送る子、鳥羽……」

2010/03/09 (Tue)

#twnovel

三月十四日。
こんなことになるとは……話は一ヶ月前に遡る。
我が県立H高科学部はペンシルロケットを射ちあげた。
三機——そのうち一機が未回収。
その機体には、チョコレートが搭載されていた。
紅一点の女子部員の発案だった。
バレンタインデーだった。
そして今日、飴が降っている。

2010/03/09 (Tue)

#twnovel

極貧の家庭で育った。
毎日、食べるのがやっと。
衣服やランドセル、みんなおさがりだった。
あるとき、友達がイチゴの話をした。
僕はイチゴというものを知らなかった。
うまく話を合わせたが、好奇心はつものる。
帰宅して、母に尋ねた。
母は、無言で出ていった。
戻った母の頭に、草冠——

2010/03/09 (Tue)

#twnovel

夜行バスで帰省した。

十年ぶりの故郷は、朝霧の底で眠っている。

予想どおり、商店街はシャッター通りと化していたが、道路は拡幅されて、やけに立派だ。

まるで滑走路だ、などと考えていたら、金物屋のシャッターが上がり、ジープが顔を出す。

牽引されてきたのは、F-22 ラプター。

2010/03/09 (Tue)

非実在JK。(2010/03/11 - 2010/03/20)

#twnovel

西暦二〇四五年八月十五日——曾祖父が逝った。
戦時中、インパールで九死に一生を得た、という話をよく聞かされた。
そこで何人もの戦友と死に別れたのだそうだ。

誰もが

「俺のぶんまで生きてくれ」

と言ったのだそうだ。

ひと一倍、責任感の強い人だった。

確かに、彼は約束を果たした。

2010/03/11 (Thu)

#twnovel

三月十四日——今年も、祖父は旅立った。
毎年、この日を選んで旅行に出かける。
もう米寿も過ぎたというのに、豊饒とした祖父だ。
自分でキャスターつきトランクを曳いて歩く。
健康法には、かなりうるさい。
旅行もその一つらしい。

「白き日旅立てば不死」と呪文のように呟いている。

2010/03/14 (Sun)

#twnovel

かいじゅうがまちにやってきた——それが最初の記憶。

私は三歳だった。

全長二百メートル、体高百メートルの巨大生物が、港湾設備を破壊して上陸、駅前
広場まで進行、そこで眠りについた。

それ以降の被害はない。

その傍らで、主人に告白され、翌年、結婚した。

明日、娘が三歳になる。

2010/03/14 (Sun)

#twnovel

「人は誰も原罪を背負っています。しかし、人の禍福は一様ではありません。なぜなら、誰かの罪を他の誰かが背負い、罰が軽く、また重くなるからです」

少女は、そう言ってにっこり笑った。

俺は、戦慄する。

「だから、あなたが苦しむほど、私は幸せになるのです」

また、鞭が鳴る……

2010/03/16 (Tue)

#twnovel

また銭湯の煙突が消えた。

塔崩壊は、確実に進行している。

あの九月、N.Y から始まった塔崩壊現象。

原因は奇妙な微生物。

高層建築のコンクリートと鉄骨だけを蝕む特性を持つ。

日本上陸後三ヶ月——東京の空はだいぶ広くなった。

地名に富士見と名のつく所、もれなく富士山が拝める。

2010/03/16 (Tue)

#twnovel

因果応報というが、原因を発見したとき、結果と結びつくこともある。

因果関係が立証されなくても、納得することで事実になる。

たとえば、春さきの県立高校。

古文の授業中、うとうとしていると、地震。

ハッ、として窓の外を見ると、体育館の扉が半開き。

女子が創作ダンスをしている。

2010/03/16 (Tue)

#twnovel

ある朝、グレゴール・ザムザが目覚めると、自分以外の全人類が虫に変身していた

。

どのような虫か、カフカも詳しい描写を避けているので割愛する。

だが、人類は虫に変じたのちも、なんの支障もなく、日常生活を営み続けた。

グレゴール・ザムザは、生涯、虫に変身する夢を見つづけた。

2010/03/16 (Tue)

#twnovel

駅を出ると、急傾斜。

だいたい線路が丘陵をえぐって通っている。
電車さえ登りたくない急傾斜。
懐かしの母校への最短ルートでもあった。
坂の途中には、近所のひとが置いた小さな椅子があった。
いつも、お婆さんがちょこんと座っていた。
だが、同級生は、誰ひとり覚えていないという。

2010/03/16 (Tue)

#twnovel

JK、JK が JK の JK をJKJKJKJK……JK。
JK は新たなJK に生まれ変わった。
(訳：常識で考えて、女子高生がジュンコ・コシノのジャケットをジヨキジヨキジヨキジヨキ……上手に切り刻んだ。ジャケットは、新たなジャンクアート風キルトに生まれ変わった。)

2010/03/18 (Thu)

#twnovel

変なコトバだ——非実在青少年。
マンガやアニメに登場する青少年のことで、彼ら、彼女らの虐待を規制する条例が可決されそうだとか。
素敵だ。
マンガもアニメも大好きだけど、キャラが酷い目にあうのは見たくない。
条例には大賛成だ。
でも、非実在は変だよ。
みんな実在してるのに……

2010/03/18 (Thu)

#twnovel

都の青少年XXX条例が改正（悪）された。
国会では、いくつかの関連法案が可決。
それを根拠に、取り締まり部署が結成された。
首相直轄下におかれ、強大な権力を駆使し、全力で非実在青少年の権利の保護にあたる。
今、武装して、我が家を包囲している。
死んでも、俺の嫁は渡さない。

2010/03/18 (Thu)

日本の皆さん、私は外国人です。
皆さんに言いたいことがあります。
クロマグロのことです。皆さんは騙されています。
そんな魚はいません。
食べたことがありますか？
ないでしょう。
そんな魚はいません。
海にいる大きな黒い生物、それはクジラです。
食べてはいけません。
以上です。

2010/03/18 (Thu)

とある、やんごとなき女子小学生の物語ッス。
超名門校に通ってるんすが、なかには粗暴な餓鬼もいて、彼女も被害者に。
ショックを受けた彼女は不登校に。
そんな彼女に、走ることを教えるボディガード、元傭兵の栗石だが——
どうッスか？
日本版”燃える男”。
え、タイトルがダサい？

2010/03/20 (Sat)

春に来るもの。(2010/03/21 - 2010/03/31)

#twnovel

春の嵐。

夜空が轟々と吠えている。

まっすぐに立ってられないほどの風。

電車は止まっている。

深夜料金のタクシーに乗るほどの持ち合わせはないし、ホテル代も、ネットカフェ代もない。

風は、西から吹いている。

方角はいい。

こうもり傘を開いた。

靴が地面を離れた。

帰りなん、いざ。

2010/03/21 (Sun)

#twnovel

日本列島に春が来た。

花咲き、鳥唄い、花粉が飛び、黄砂が降る。

嬉しいような悲しいような春。

だが、まだ誰も知らない——真の脅威を。

すでに、監視衛星がその姿を伝えている。

ゴビ砂漠に設置された、巨大な砂漠移動装置（仮）。

そして、某国が、黄砂飛散地域の領有権を主張する……

2010/03/21 (Sun)

#twnovel

春になり、街が黄色く霞んでいる。

郊外へ出ると、霞は、どんどん濃厚になる。

黄色く濁った沼の底。

列車は、黄色い闇に潜りこんでゆく。

山岳地帯。

もうすぐ終着駅。

不格好なロボットみたいな強化防護服に入りこみ、仲間と向かい合う。

互いの装備を点検。

さあ、邪悪な森を焼き払おう。

2010/03/21 (Sun)

#twnovel

テレビ、新次元——なんてキャッチコピーで誕生した斬新な映像媒体。
しかし、これは、テレビなんかじゃない。
超々高精彩映像？
あたりまえだ。
映像じゃないんだ。
本物なんだ。
その機械は、君の魂をとりこんで、体験させているんだ。
どう？
帰る気にならないだろ？
退屈な世界に。

2010/03/22 (Mon)

#twnovel

そこから、見えるだろうか？
この人工の星が
ここからは、よく見える。
こんなに遠いのに。
皮肉だけど、火災や銃火は、とくによく見える。
また閃光。
ここからは胡麻粒ほどにしか見えないけど、恐ろしく巨大なものに違いない。
それが、僕の故郷を蹂躪している。
海から来たそれが……

2010/03/22 (Mon)

#twnovel

もう何度めだ。
発言者を遮って、私がつっこみ。
すると、あさっての方向から、青臭い正論を吐く青年。
拍手。
アナウンサーが軌道修正、他の意見を求める。
私、さっきの続きをまくしたてる。
また、さっきの青年、正論攻撃。
繰り返し……
「リハ終了です。本番もこのとおりによろしく！」

2010/03/22 (Mon)

#twnovel

奴はまた来る——この街を壊しに、焼きはらいに。
だから、まだ死ねない。
絶対首都防衛システムを完成させるまでは。
これは、私の人生をかけた復讐なのだ。
しかし、間に合うのか？
なぜ、誰も急がないのだ？
新しい東京電波塔の完成は目前だ。
奴が破壊しに来るに決まっているのに。

2010/03/24 (Wed)

#twnovel

予言。
数年以内に、シンギュラリティと呼ばれる現象が発生する。
しかし、それは、空想科学小説から言葉を盗んだだけの、似て非なるもの。
たぶん、かなりつまらない技術革新。
あつというまに忘れられる。
そのため、真のシンギュラリティ発生時には、誰も気がつかない。
実は、もう……

2010/03/29 (Mon)

#twnovel

転勤して、最初の休日。
新しい職場にも慣れて、やっと、町を散策する余裕ができた。
どんな発見や出会いが待っているんだろう。
まずは腹ごしらえ。
”おいしい中華そば”
という看板の店で、ラーメンと餃子……なんだか、いまいちな味。
店を出て、看板を見ると——
”おいしい中華そば”

2010/03/29 (Mon)

#kaibun
#twnovel

桜の落差が——

私、にこり、としてこよう。
恋——
もしも……
行こう、横手市。
虜にした、我が桜の落差。

2010/03/30 (Tue)

#kaibun
#twnovel

ああ、合わんか。
あんた、シシか？
面白いわ、あの酒のみ。
没の落差で、やけ酒、やけ酒や。
で、桜の蕾の、今朝の淡い濾紙もおかししたん？
あかんわ。
あああ……

2010/03/30 (Tue)

#twnovel

わたしたちは茹で蛙よ。
苦労ばかりの人生、やっと楽になったと思ったら、身体が言うことをきかない。
いろいろ便利になったけど、自分で使える機械なんてある？
みんな、若い人にやってもらう。
その若い人たちの言葉だって、わからない。
そうでしょ？
わかる？
1010101……

2010/03/31 (Wed)

#twnovel

明日なら言える、と思う。
四月一日なら。
本当のことを、君に。
ずっと、君を騙っていた。
出会ったときから、ずっと。
君だけじゃない。
この惑星の全員に嘘をついてきた。

仕方がなかった。
でも、君にだけは真実を知っていてほしいんだ。
こんな気持ちは、初めてだ。
「アンヌ、実は……」

2010/03/31 (Wed)

#twnovel

四月一日。
昔は着物の綿を抜く日だったとか。
温かくなって、春も本番。
この時期、女の子はきれいに見える。
気のせいではなく、ホルモンバランスが変わるらしい。
それにしても……久しぶりに会った先輩の美しさには、思わず息を呑んだ。
「綿を抜いたのよ。変？」
え、含み綿してたの？

2010/03/31 (Wed)

#twnovel

冬の散歩道……
四月になれば彼女は、早く家へ帰りたい。
四月になれば彼女は、スカボロー・フェア。
四月になれば彼女は、サウンド・オブ・サイレンス。
四月になれば彼女は、明日に架ける橋。
四月になれば彼女は、コンドルは飛んでゆく。
四月になれば彼女は、ミセス・ロビンソン……

2010/03/31 (Wed)